2024火山砂防フォーラムを開催

「火山を知り、火山と共に生きる」～雲仙・普賢岳　火山地域の未来に向けて～

《開催趣旨》

雲仙・普賢岳は現在も噴火活動で出現した巨大な溶岩ドームは不安定な状態で存在し、地震等での崩壊も懸念されています。

「日本一の自主防災組織」を目指す島原市において開催される「2024火山砂防フォーラム」では、国によるハード対策及び自主防災組織よるソフト対策を融合し、地域力向上を目指すとともに、インフラツーリズムや無人化施工の未来についても焦点をあてつつ、今後の危機管理意識の向上などについて意見交換を行うものです。

《概　要》

日　　時：令和6年10月24日（木）13:00～16：40
場　　所：長崎県島原市有明総合文化会館
参　加　者：約550名
プログラム：開会式典、井戸端会議、パネルディスカッション
参加報道関係：朝日新聞、長崎新聞、島原新聞、建設新聞社、カボチャテレビ、ひまわりテレビ

開 会 式 典

主 催 挨 拶

火山砂防フォーラム委員長
古 川 隆 三 郎
島原市長

来 賓 祝 辞

参議院議員
古 賀 友 一 郎

国土交通省 砂防部長
草野　愼一

島原振興局長
近藤　和彦
（長崎県知事 代理）

火山砂防フォーラム委員会 幹事員の皆さん

ご来賓の皆さん

2024火山砂防フォーラムを開催

「火山を知り、火山と共に生きる」～雲仙・普賢岳　火山地域の未来に向けて～

■井戸端会議

『日本一の自主防災組織を目指して　～ 自助から始める地域防災 ～ 』

「日本一の自主防災組織」を目指している島原市は、「二度と自然災害による犠牲者を出さない」ために「自分たちの町内は自分たちで守る」をスローガンに、各町内会が防災意識を高め、各町内の異なる災害特性に応じた防災避難訓練などを目指している「安中地区自主防災会」、「安中地区住民」を招き、以下の３つについて取材映像などの活動報告を交え、地域防災力強化の今後の取組みについて井戸端会議を行いました。

（1）安中地区自主防災会の概要と過去や現在の取組み

（2）安中地区における災害伝承や防災学習などへの取組み

（3）地域防災力の強化に向けた災害特性に応じた防災避難訓練などの取組み

コーディネーター）瀧本　浩一（山口大学大学院 准教授、島原市防災アドバイザー）

出　　演　　者）　横田　哲夫（安中地区住民、安中地区自主防災会 会長）

下田　隆史（安中地区住民、安中地区自主防災会 副会長）

林　　正敏（安中地区住民、安中地区自主防災会 副会長）

永田龍之介（安中地区住民、島原市消防団 副団長）

長門　亜矢（安中地区住民、雲仙岳災害記念館　マネージャー）

2024火山砂防フォーラムを開催

「火山を知り、火山と共に生きる」～雲仙･普賢岳　火山地域の未来に向けて～

■パネルディスカッション

『雲仙・普賢岳　～火山地域の未来に向けて　～　』

多大な被害を長期間にわたり与え続けた雲仙・普賢岳の噴火。被災から復興を果たすうえで必要不可欠であった直轄砂防事業は、令和2年度から直轄砂防管理を開始し、砂防堰堤の施設管理や流域と溶岩ドームの監視等を行っている。

このパネルディスカッションでは、前段の自主防災会の井戸端会議を踏まえ、3つの話題構成から砂防施設整備の効果と安全・安心や無人化工法の未来、地域を守る広大な砂防施設等のインフラツーリズムやロケツーリズム等を含めた地域活性化について意見交換を行うとともに、火山地域の未来に向けた島原市の施策などについてディスカッションを行いました。

（1）ハード整備の効果と無人化工法の未来～自動運転・新たな建設作業現場・資格取得等～

（2）インフラツーリズム　～火山砂防施設等を生かした地域活性化・活力向上～

（3）火山地域の未来　～災害継承、防災学習、資源活用、島原半島から有明海湾岸等未来～

コーディネーター：大野　宏之　（一社）全国治水砂防協会　理事長）

パネリスト　　：清水　洋　（防災科学技術研究所　火山研究推進センター長）

：山田　実希　（ロケーションジャパン　編集長）

：カントヴィッツ・ニコライ（島原半島ジオパーク協議会　国際交流専門員）

：古川　隆三郎　（島原市長）

コメンテーター　：草野　愼一　（国土交通省砂防部長）

フォーラム会場から水無川第2砂防堰堤付近の
バックホウを無人化操作するパネリスト

2024火山砂防フォーラムを開催

「火山を知り、火山と共に生きる」～雲仙･普賢岳　火山地域の未来に向けて～

パネリスト：清水　洋　　（防災科学技術研究所　火山研究推進センター長）

・火山プロジェクトでは、ドローンを活用した研究や技術開発が進み、かなり有望。噴火の活発化で警戒区域内に人が入れない時に、「いろんなドローンで情報をとる」というのは宇宙からのリモートセンシングと並んで、非常に重要です。
・火山防災施設インフラツーリズムについては、海外のように、自然観察ツアーの要素も盛り込んだインフラツアーを企画できると参加対象者も広がって良いのではないかと思います。
・地域で地域の子供たちに防災教育などを行う「島原防災塾」等も継続的、発展的に実施していければ良いと考えています。

パネリスト：山田　実希　　（ロケーションジャパン　編集長）

・これらのインフラ施設で時々ツアーを組まれるということは、ニーズがあるということ。国と自治体とが情報共有等をし、興味・関心を持てる入口を提供できればいろいろ活用できるのではないかと思っています。
・島原は美味しいイメージしかありません。常に島原の恵みが日常に入り込んでいるので、地域の良さをもっとアピールしたらいいんじゃないかと思います。
・さまざまな島原らしい資源を、地域内外へアッピールしながら地域ブランディングしていくことが大切なんだと思います。

パネリスト：カントヴィッツ・ニコライ（島原半島ジオパーク協議会　国際交流専門員）

・砂防インフラ観光などを行う時には、砂防インフラだけでなく、もっと歴史文化やジオパークなども結び付けて紹介したら良いと思います
・島原は火山はリスクもありますが、私の大好きな温泉や水、肥沃な土地に豊かな農作物、壮大な景色、そして有明海からは新鮮な魚が採れるなど、本当に恵まれているところなんだと思います。
・島原は世界ジオパークなので、ユネスコなどもっと活用し、島原半島を世界に向けて発信して、世界とのネットワークを充実させていきたいと思います。

パネリスト：古川　隆三郎　（島原市長）

・「労働力が確実に減少してきている」、砂防だけでなくあらゆるジャンルに無人化や自動運転、省力化が求められてきているのが、今の課題だと考えます。
・無人化施工は女性や体に障害をお持ちの方でも操作することはでき、一定の労働力として確保でき、新たな職場づくりとなるのではないかと考えています。
・無人化にしてもインフラツーリズムにしても、民間が主導権を持つようなイメージがこれからの世の中だろうと思っています。
・火山地域と共存している我々は、ハードやソフトを融合し、この恵まれた地域を未来へ繋いぐ努力していくことが、本当に重要なんだと思います
・全国初となる「新技術実装連携“絆”特区」として指定、新たな地域経済への貢献や雇用確保等、未来に向けた一歩を踏み出していきたいと考えています。

コメンテーター：草野　慎一　　（国土交通省砂防部長）

・国土交通省では、i-Construction2.0 と銘打ち、次世代の建設・砂防現場へのデジタルトランスフォーメーションを展開中です。
・全国には地域振興に”砂防”を活かして頂いている例がいくつもあります。島原市でも、施設利用や活用方法について大いに議論いただいてよいのでは。
・防災も観光も地域に対する理解、地域愛が基盤。災害時に慌てずに行動するにも、地域を盛り上げていくにも、地域をよく知ること、そして好きになる事が大事ではないかと思います。
・島原市の未来に向けたさまざまな取組を、砂防の観点からサポートしてまいりたい。

コーディネーター：大野　宏之　　（一社）全国治水砂防協会　理事長）

・建設現場の自動施工、リモート検査など施工管理のオートメーション化、雲仙の砂防管理でも新たなインフラＤＸが進み、無人化工法と同様、全国の事例となって行くことを願う。
・広大な砂防施設インフラに対し、普段からの防災学習だけでなく、ロケなどに活用していくことは、島原半島全体の地域活性化にも繋がって行くように思えます。
・「地域振興を支える安全・安心」を図るためには、施設整備などの他、火山地域の警戒レベルに応じた迅速な避難体制の整備が課題で、「改正活火山法」では、火山防災会議が避難確保計画の策定等を援助することになっており、新しい時代の関係機関の連携システムとして機能していくことが望まれます。